

会議の概要(議事録)

会議の名称	(番号) 1 - 27	令和6年度第1回墨田区地域福祉計画推進協議会																																																																																																		
開催日時	令和6年8月27日(火)午後1時30分から午後3時10分まで																																																																																																			
開催場所	墨田区役所12階 121会議室																																																																																																			
委員名簿	出席委員(19名)																																																																																																			
	<table><tr><th></th><th>氏名</th><th>所属</th><th>出欠</th></tr><tr><td>1</td><td>野原 健治(会長)</td><td>社会福祉法人興望館理事長</td><td>出席</td></tr><tr><td>2</td><td>山口 稔(副会長)</td><td>関東学院大学名誉教授</td><td>出席</td></tr><tr><td>3</td><td>山室 学</td><td>墨田区医師会会長</td><td>出席</td></tr><tr><td>4</td><td>稜川 雅彦</td><td>東京都向島歯科医師会会長</td><td>出席</td></tr><tr><td>5</td><td>浅尾 一夫</td><td>墨田区薬剤師会会長</td><td>出席</td></tr><tr><td>6</td><td>鎌形 由美子</td><td>墨田区民生委員・児童委員協議会会長</td><td>出席</td></tr><tr><td>7</td><td>庄司 道子</td><td>墨田区障害者団体連合会会長</td><td>出席</td></tr><tr><td>8</td><td>星野 喜生</td><td>墨田区老人クラブ連合会会長</td><td>出席</td></tr><tr><td>9</td><td>三好 健太郎</td><td>墨田区特別養護老人ホームはなみずきホーム施設長</td><td>欠席</td></tr><tr><td>10</td><td>大滝 信一</td><td>墨田区社会福祉事業団事務局長</td><td>出席</td></tr><tr><td>11</td><td>前田 恵子</td><td>墨田区社会福祉協議会事務局長</td><td>出席</td></tr><tr><td>12</td><td>小池 尋江</td><td>墨田区男女共同参画推進委員会委員</td><td>出席</td></tr><tr><td>13</td><td>外川 浩子</td><td>NPO法人「マイフェイス・マイスタイル」代表</td><td>出席</td></tr><tr><td>14</td><td>伊藤 林</td><td>個人ボランティア</td><td>出席</td></tr><tr><td>15</td><td>大野 敏宏</td><td>個人ボランティア</td><td>出席</td></tr><tr><td>16</td><td>木村 幸雄</td><td>個人ボランティア</td><td>欠席</td></tr><tr><td>17</td><td>井上 久子</td><td>録音グループ「かりん」会長</td><td>欠席</td></tr><tr><td>18</td><td>齊藤 宮子</td><td>点訳グループ「きつつき」会長</td><td>欠席</td></tr><tr><td>19</td><td>浮田 康宏</td><td>墨田区福祉保健部長</td><td>出席</td></tr><tr><td>20</td><td>酒井 敏春</td><td>墨田区子ども・子育て支援部長</td><td>出席</td></tr><tr><td>21</td><td>杉下 由行</td><td>墨田区保健衛生担当部長</td><td>出席</td></tr><tr><td>22</td><td>須藤 浩司</td><td>墨田区保健衛生担当次長</td><td>出席</td></tr><tr><td>23</td><td>後藤 隆宏</td><td>墨田区地域力支援部長</td><td>出席</td></tr></table>					氏名	所属	出欠	1	野原 健治(会長)	社会福祉法人興望館理事長	出席	2	山口 稔(副会長)	関東学院大学名誉教授	出席	3	山室 学	墨田区医師会会長	出席	4	稜川 雅彦	東京都向島歯科医師会会長	出席	5	浅尾 一夫	墨田区薬剤師会会長	出席	6	鎌形 由美子	墨田区民生委員・児童委員協議会会長	出席	7	庄司 道子	墨田区障害者団体連合会会長	出席	8	星野 喜生	墨田区老人クラブ連合会会長	出席	9	三好 健太郎	墨田区特別養護老人ホームはなみずきホーム施設長	欠席	10	大滝 信一	墨田区社会福祉事業団事務局長	出席	11	前田 恵子	墨田区社会福祉協議会事務局長	出席	12	小池 尋江	墨田区男女共同参画推進委員会委員	出席	13	外川 浩子	NPO法人「マイフェイス・マイスタイル」代表	出席	14	伊藤 林	個人ボランティア	出席	15	大野 敏宏	個人ボランティア	出席	16	木村 幸雄	個人ボランティア	欠席	17	井上 久子	録音グループ「かりん」会長	欠席	18	齊藤 宮子	点訳グループ「きつつき」会長	欠席	19	浮田 康宏	墨田区福祉保健部長	出席	20	酒井 敏春	墨田区子ども・子育て支援部長	出席	21	杉下 由行	墨田区保健衛生担当部長	出席	22	須藤 浩司	墨田区保健衛生担当次長	出席	23	後藤 隆宏	墨田区地域力支援部長	出席
		氏名	所属	出欠																																																																																																
	1	野原 健治(会長)	社会福祉法人興望館理事長	出席																																																																																																
	2	山口 稔(副会長)	関東学院大学名誉教授	出席																																																																																																
	3	山室 学	墨田区医師会会長	出席																																																																																																
	4	稜川 雅彦	東京都向島歯科医師会会長	出席																																																																																																
	5	浅尾 一夫	墨田区薬剤師会会長	出席																																																																																																
	6	鎌形 由美子	墨田区民生委員・児童委員協議会会長	出席																																																																																																
	7	庄司 道子	墨田区障害者団体連合会会長	出席																																																																																																
	8	星野 喜生	墨田区老人クラブ連合会会長	出席																																																																																																
	9	三好 健太郎	墨田区特別養護老人ホームはなみずきホーム施設長	欠席																																																																																																
	10	大滝 信一	墨田区社会福祉事業団事務局長	出席																																																																																																
	11	前田 恵子	墨田区社会福祉協議会事務局長	出席																																																																																																
	12	小池 尋江	墨田区男女共同参画推進委員会委員	出席																																																																																																
	13	外川 浩子	NPO法人「マイフェイス・マイスタイル」代表	出席																																																																																																
	14	伊藤 林	個人ボランティア	出席																																																																																																
	15	大野 敏宏	個人ボランティア	出席																																																																																																
	16	木村 幸雄	個人ボランティア	欠席																																																																																																
	17	井上 久子	録音グループ「かりん」会長	欠席																																																																																																
	18	齊藤 宮子	点訳グループ「きつつき」会長	欠席																																																																																																
	19	浮田 康宏	墨田区福祉保健部長	出席																																																																																																
	20	酒井 敏春	墨田区子ども・子育て支援部長	出席																																																																																																
	21	杉下 由行	墨田区保健衛生担当部長	出席																																																																																																
	22	須藤 浩司	墨田区保健衛生担当次長	出席																																																																																																
	23	後藤 隆宏	墨田区地域力支援部長	出席																																																																																																
	【事務局】																																																																																																			
・厚生課長 若菜 進																																																																																																				
・相談支援担当副参事 中尾 清美																																																																																																				
・生活福祉課長 渡邊 浩章																																																																																																				
・障害者福祉課長 瀧澤 俊享																																																																																																				
・介護保険課長 島田 哲夫																																																																																																				
・高齢者福祉課長 瀬戸 正徳																																																																																																				
・地域包括ケア推進担当副参事 清水 洋平																																																																																																				
・厚生課 大島、中武、高林、佐々木																																																																																																				
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる)		傍聴者数	0人																																																																																																

議 題	1 第4次墨田区地域福祉計画の進捗状況報告について 2 その他報告 (1) すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム開催の報告について (2) 墨田区包括的支援体制整備事業、ひきこもり支援推進事業について
資 料	・次第 ・令和6年度墨田区地域福祉計画推進協議会委員名簿 ・第4次墨田区地域福祉計画 令和5年度事業実績及び令和6年度事業計画 概要版 ・第4次墨田区地域福祉計画 令和5年度事業実績及び令和6年度事業計画 ・令和6年度すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム報告書 ・墨田区包括的支援体制整備事業、ひきこもり支援推進事業について
会議概要	
【1】福祉保健部長あいさつ 【2】新任委員の紹介 厚生課長から新任委員となった嵯川雅彦委員、星野喜生委員、三好健太郎委員、小池尋江委員、人事異動のあった浮田康宏委員の紹介をした。 【3】会長・副会長の選出 (1) 委員の互選により、野原委員が会長に選出された。 (2) 野原会長の指名により、山口委員が副会長に選出された。 【4】議事 (1) 第4次墨田区地域福祉計画の進捗状況報告について 「第4次墨田区地域福祉計画 令和5年度事業実績及び令和6年度事業計画 概要版」について厚生課長から説明 「第4次墨田区地域福祉計画 令和5年度事業実績及び令和6年度事業計画」について各所管から説明 - 厚生課長から「事業番号32 成年後見制度の利用支援」について説明 - 障害者福祉課長から「事業番号53 すみだスマイルフェスティバルの開催」、「事業番号55 福祉作業所等経営ネットワーク支援事業」について説明 - 高齢者福祉課長から「事業番号4 デジタルデバイドの解消」について説明 - 地域包括ケア推進担当副参事から「事業番号56 認知症普及啓発」について説明 - 墨田区社会福祉協議会から「事業番号2 地域福祉プラットフォーム」、「事業番号51 災害ボランティア活動体制の整備」について説明 (2) その他報告 - 令和6年度すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム報告書について厚生課から説明 - 墨田区包括的支援体制整備事業、ひきこもり支援推進事業について相談支援担当副参事から説明 【委員からの意見】 ○外川委員 成年後見制度について、墨田区では制度を本当に必要としている人たちにどれくらい行き届いていると思うか。 ○若菜課長 どれくらい制度が必要とされているかはわからない。制度を利用する前段階の権利擁護等のサポートもあるため、どのタイミングで成年後見制度の利用に移行するか見極めることも難しい。本制度の趣旨は制度利用者の権利を守り、過ごしやすいようにすることであるため、それが叶うよう、関係者たちが相談しながら、(成年後見制度の利用に限らず)その人に合ったサポートの方向性を決めることが重要であると考えている。	

○外川委員

墨田区は（成年後見制度の利用支援が）すごく進んでいると思う。必要とはわかっているけど、市民後見人の養成講座を実施できていない自治体も多い。

○若菜課長

おっしゃるとおり、市民後見人の養成講座を実施している。地域の人を支えたい意思を持った方々に後見人をやっていただくもので、墨田区ではなり手の希望者が非常に多い。財産処分など、市民後見人では行うのが難しいこともあるが、生活を支えるという点においては、社協の協力もいただきながら、できるだけ（サポートを必要とする方々に対し）市民後見人に寄り添っていただいている。

○山口副会長

成年後見制度の事業は行政と社協両方でやっていると思うが、違いは何か。また、行政には後見人への報酬助成というものがあって、社協でも「報酬費用助成」という呼び方でそれを行っているが、これらにも違いはあるのか。

○若菜課長

行政は親族等の申立者がいない場合の「区長申立て」を担っている。社協の場合は親族等による申立てだが、後見人に報酬を支払うことができない場合に、その費用を助成する形。成年後見人に支払う費用という点では両者は同じ。

○山口副会長

かかった費用はすべて助成されるのか。

○若菜課長

施設に入所している方と、在宅の方で、月々の金額が決まっている。被後見人が施設入所者の場合は月 18,000 円、在宅の場合は月 28,000 円。そのため、審判で適当な費用が示されたとしても、区の助成としては、決まった金額での助成となる。

○山口副会長

市民後見人として活動している知人がいるが、「お金が足りずもうやりたくない」と話していた。市民後見人になるため研修を受けて資格を取ったけれども、やる気をなくしてしまうようなシステムになっているのであれば問題である。

○若菜課長

市民後見人は報酬助成がなく、ボランティアという形でエントリーする。ただし、活動費は数千円出る。その方々への負担に対する措置がそれだけで大丈夫なのかは課題であると思う。

○山口副会長

私の知人は、自腹を切って市民後見人の活動をしているが、交通費も足りないと言っていた。配布資料を見ると、市民後見人の受任の件数しか出ていないが、市民後見人の活動実態と比較してこの件数や支給される金額が適切なのかどうか、この資料だけでは判断できないと思った。

○外川委員

「事業番号 4 デジタルデバイドの解消」について、（スマートフォン体験会を）学生と連携して取り組んでいる点がすごく良いと思った反面、配布資料には、学生が夏休みの終了や受験等を機に参加が難しくなるため、持続的な活動ができない点が課題として挙げられている。そのとおりだとも思うが、学生は毎年入れ替わるため、それほど長期間参加しなくてもよいと考える。学生が入れ替わっても構わないから参加人数を増やしていきたいのか、それとも持続的に参加してほしいのか。

か、どのように考えているか。

○野原会長

(外川委員の質問に) 加えて、デジタルデバイドについて説明いただきたい。

○瀬戸課長

デジタルデバイドとは、デジタル機器を使っている人とそうでない人の格差のことである。この事業ではそのような状況を解消し、多くの方がスマートフォン等を使えるようになることにより、生活の質の向上を図る。

今は iU (情報経営イノベーション専門職大学) の学生を中心にかかわっていただいているが、まさにデジタルを使った経営や、生活の質の向上を一つの主眼としている大学であるので、その学生の方々がこの事業と一緒に取り組むこと自体に意義があると考ええる。また、「みんなチャレ (スマートフォン利用の習慣化に利用されるアプリ) 」を開発している会社に学生がインターンシップに行く機会もあり、学生側にも大きなメリットがある。また、夏休みが終わってしまうと参加が難しくなるほど、学生の方々に負担がかかるような仕組みにはなっていない。(この事業を) 良いと思ってくれた学生は継続的に参加してくれているし、もちろん次の学年の方も入ってこられるので、良い意味での新陳代謝はされているかと思う。

また、本事業はデジタルデバイドの解消だけでなく、高齢者の方との多世代交流の場にもなっている。中学生の方が参加する機会もあるが、明らかに高齢者の方々の雰囲気が出るため、非常に効果が出ていると思う。

○小池委員

ボランティアの在り方という点で、特に学生ボランティアの方のやりがいの搾取にならないような注意や配慮が必要なのではないかと考えている。今の学生は、昔の学生と違って自分自身で学費や生活費を負担しながら学業を続けていらっしゃる方もいるため、ボランティア活動自体が学業や研究成果に繋がるような上手いスキームを作らないと、学生さんに多大な負担がかかってしまうのではないかと考えていたが、連携されている大学の特性や、学生自身のこれからの学業にもリンクするような活動であるという話を聞き、とても安心した。

○伊藤委員

バリアフリーのまちづくりという面で、建物の景観だけでなく、障害者の方が住みやすいまちづくりを行うことの重要性が町会の中で話されている。目の見えない方には点字ブロックがあったほうがよいが、車いすで移動する方は道が平らのほうがよいという点で考え方が違い、なかなか取組を前に進めるのが大変であると思う。その他に、障害者用トイレが本当に使える状態であるのか等の話も出ている。また、学生の協力を得てバリアフリーの店舗を調べられるアプリを作っている地域もあると聞いたので、学生との連携も重要であると考ええる。

「事業番号 5 1 災害ボランティア活動体制の整備」について、配布資料には災害ボランティア講座を 2 回実施し、22 人が参加したと書かれているが、実際に災害があったときに、その人たちが実際に現場に来られるのか、指揮を取れるのかということまで目を向けるべきである。ただ「研修会をやりました、受けました、参加者は何人います」という事実だけではなく、より具体的な成果を資料上見えるようにしたほうがよいと思う。

○嵯峨委員

「事業番号 2 地域福祉プラットフォームの運営」について、高齢化社会が進む中で、孤立やひきこもりを防ぐためには必要な事業であると思うが、設置場所は京島・本所・八広であり、区の北部に偏っている気がする。6 年度には新規 2 か所のプラットフォームを開設するということであるが、どこに開設されたのか。また、京島・本所・八広には、これらの地域に孤立が考えられる住民が多いというデータに基づいて設置したのか。

○前田委員

いずれは京島・本所・八広だけでなく、全体的にもっと歩いて行ける距離に作っていきたいと考えている。そのため、あえて北部地域に偏らせて設置したわけではない。令和6年度に関しては、新規開設のうち1か所は、緑にあるボランティアセンターの分館に設置しようと考えている。南部は施設が少ないため、プラットフォームの候補地を探すのに苦労している現状があるが、出張プラットフォームという形で、今ない場所にも作っていかれたらと考えている。

○鎌形委員

今回のすみだ地域福祉・ボランティアフォーラムのテーマである「プラットフォーム」は、一般の方にはあまり知られていない言葉のため、理解してもらえるか懸念があったが、とても良いフォーラムになっていた。今回は中学生の方も参加していた。中学生の参加者にとっては、周りの参加者は自分の祖父母世代の方が多いため、活発に参加とまではいかなかったが、「プラットフォームとは何か」という点が分かってもらえたと思う。

「生涯にわたってボランティア活動をしたい」と思う方を育てることも大事だが、人生においてずっとボランティア活動に力を入れることはなかなか難しいため、ボランティア活動の裾野を広げたほうがよいのではないかと感じている。今の子どもたちは、機会を与えればボランティア活動に活発に動いてくれるのではないかなと思うので、そのような意味でも今回のフォーラムはとても良いものだった。

○浅尾委員

「ひと涼みスポット薬局」と称し、区内の30程度の薬局が、（暑熱避難所として）薬局を一時開放しており、環境省のモデル事業にも選定された。普段薬局を利用されないような方が休憩する場所にもなっているため、現在も区のイベントほか、さまざまなお知らせを薬局で配布しているが、ひと涼みスポット薬局のような取組についても引き続き行ったほうがよいと思う。今度横川五丁目に新しく保健施設ができ、それに伴って薬剤師会の事務所も引っ越すが、新事務所は1階にあり、イベントができるようなスペースもあるので、先ほど話が出た出張プラットフォームであるとか、ぷらっと寄れるような場所づくりもできやしないかと思った。

○大滝委員

社会人になっていろいろな局面の中でご自宅にひきこもるに至り、長期間経っている方を何人か見てきた。首都圏で親と同居しているひきこもりの方は家から出る必要がないし、親側がひきこもりの子どもを隠して、あまり人に語らなかつたり、悩んではいるが言えなかつたりする場合も多い。子ども側も、ひきこもりになってしまった原因を親に責任転嫁したり、怒鳴ったりする。ひきこもりの子どもの存在を隠している手前、親も引け目を感じて子どもの言いなりになっており、子どもと言っても40～50代の方が、いわゆる家の権力者になっている。一人暮らしのひきこもりは生きていくために外に出なければならず、本当の意味でひきこもれないため、社会的に完全に孤立して家の中にひきこもるのは、安心して親が食べさせてくれる環境があるひきこもりである。私はひきこもり支援において一番支援や意識改革が必要なのは親なのではないかと考えており、親に対してどう働きかけるかを考えていただけたらと思った。

○中尾副参事

おっしゃるとおり、「家族が変われば本人（ひきこもり当事者）が変わる」ということを感じている。まずはご家族が、自身のことを振り返り、自分ごととしてとらえていただくことが第一歩である。最初は息子・娘の愚痴など、ひきこもり当事者本人のことをひたすらお話をさるご家族も多いが、そのうちに自分ごととして振り返り、気づき、少しずつ変化が見えてくる。個別相談や、オープンダイアログの手法を活用した家族会に参加される中、家族関係や対応の改善が図られることで、ひきこもっていたお子さんの高校進学や、自立訓練事業所への通所希望、地域福祉プラットフォームをはじめとするコミュニティに参加する方など次のステップに進む方も増えてきた。

○山室委員

区が重点的に取り組むこととして、「児童発達支援センター等の運営」が挙げられており、今度5歳児健診をやられるということで、そこで発達障害の子を見つけて、発達障害がある子どもたちについて児童発達支援センターが関与し、就学がうまくいくように支援をされると思うが、現在の取組状況はどうなっているかお聞きしたい。また、「医療的ケア児支援事業」について、現状区で医療的ケア児を受け入れているかどうか、または受け入れられるような状況を作る努力としてどのようなことをされているかについてお聞きしたい。

○須藤委員

5歳児健診は、現在スキームの構築を検討している。なるべく早期に実施したいと考えている。

○瀧澤課長

5歳児健診については保健センターから協議を受けていて、その後のつなぎの方法についても相談を受けている。5歳児健診を始めるのは小学校に入る前だと思うので、その時点から療育を受ける時間があれば療育につながるであろうし、タイミング的にすぐ小学校に入学してしまうということであれば、その子の状態に合った学校や学級、場合によっては情緒障害の方が入るクラスなど、適切などころに振り分けるようなスキームを現状で考えていると聞いている。

医療的ケア児については、ケアの程度の下が非常に大きいと認識している。現在も保育園や小学校において、医療的ケア児の受け入れは徐々に進めていただいている。障害者福祉課の分野で言えば、児童発達支援事業所があるが、これも医療的ケアの程度によって受け入れられる場合と受け入れられない場合があるのが現状。これからの課題として、医療的ケアの程度の重い方についても、発達の訓練ができるような施設の整備を検討している。

○山室委員

一般の保育園や小学校での受け入れはあるのか。

○酒井委員

医療的ケアの程度により、集団保育や学童クラブで受け入れるのは難しい場合があるため、一定の線引きはあると思うが、状況に応じ、例えば看護師を配置するなどして、一部の保育園でも受け入れを行っている。学童クラブについても同じような状況で、何人が受け入れをさせていただいている。

○外川委員

お話を聞きながらつきみだんごチャンネル（墨田区とコラボし、ひきこもりに関する内容を発信しているYouTubeチャンネル）を少しだけ見たが、コメントがつくくらいみんなに視聴されていてすごいと思った。本協議会では、会議資料を紙やデータで配布するのもよいと思うが、映像で見た方がよりわかりやすいと思う。先ほどお話のあったボランティアフォーラムについても、開催の様子が画面上で動いていたら、印刷された写真よりもよくわかると感じた。

【まとめ】

○山口委員

行政の委員会は情報量があまりにも多く、理解するのがとても大変。その結果、委員会が形式的な承認という形に流れることが非常に多い。この場合は協議会であり、「協議すること」をメインにしなければならない。事務局は提示する情報を絞るほか、意見を出しやすいような資料や情報の出し方を行うことが重要であると考え。先ほどお話が出たように、視覚化したり、統計にしたりすることも1つの方法である。また、今回の協議会は新しいメンバーになって1回目であるので、この委員会の役割や責任について、本当は今日、認識を統一させるための議論をしなければならないと思う。

会議の中身で気になったことをいくつかお話ししたいと思うが、1つはデジタルデバインドについ

て。言葉としては情報の格差による平等・不平等を意味するが、実態としては「高齢者が情報化社会に合わせなさい」という話であると思う。要するに、情報化社会側が高齢者に歩み寄っていない。高齢者のデジタル機器活用を支援するには、高齢者を支援する家族や地域の人たちにもデジタルデバイドについての理解を深めてもらわないといけないし、それができたかを問わなければならない。また、事業に関わる人たちの意見がデジタルデバイドの解消にどう生かされているのか、フィードバックのサイクルが資料に反映されると、意見を出しやすいと感じた。

次に、プラットフォームについて。全国的に広く使われるようになり、便利な言葉ではあるが、あまりに便利すぎて、概念が拡大化・多様化し、プラットフォームという言葉だけでは何を指しているかわからなくなってしまう。行政、社協、企業、ボランティア、住民など、さまざまなところにプラットフォームは存在する。それらは意思決定の体系・メンバー間の力関係等、構造が異なるため、それらをきちんと押さえたうえで、「このプラットフォームはこういう性格である」と説明する必要がある。性格とは、例えば長期的・恒常的なプラットフォームなのか、何かの課題についての一時的なプラットフォームなのか、といったことや、短期的にはこういう成果があるし、長期的にはこういう成果を望んでいる、といったこともある。そのうえで、プラットフォームに参加した人たちが、そのプラットフォームをどうしていきたいかという意見を吸い上げ、資料に反映させると、議論がしやすいと思う。先ほどのボランティアフォーラムの話についても、いろいろアンケートを取ったという話が出たが、どのようなアンケート結果があがってきたのかと、それは今後どう生かせるのかといった点がわかると、評価をしやすいと感じた。

また、認知症の普及啓発について。認知症サポーターの話があったが、高齢者や介護者たる家族が、そうしたサポーターや認知症の対策にどのようなニーズや意見を持っているのか把握し、資料に反映させると、いろいろな評価ができると思う。そのため、「認知症サポーター養成講座で何千人養成されました」という量的な評価も大事であるが、そこに参加した人たちが何を考えたのか、何を望んでいるのか、どこまで理解が深まったのか、といった点がわからないと、事業の評価は難しいと感じた。

どこの自治体も委員会は形式的になりがちだが、墨田区は質的なニーズを把握するということをやっとやっけてきている。そこからさらに進めて、質的なニーズをどうとらえるか、という点に着目することが重要であり、事業に参加したさまざまな主体の意見を全部吸い上げて、資料に反映させると、有意義な議論ができるのではないかと感じた。

会議の概要は、以上である。

所 管 課

墨田区福祉保健部厚生課厚生係
(電話 0 3 - 5 6 0 8 - 1 1 6 3)